

橋梁技術発表会 及び 講演会

開催概要

日時	令和8年11月6日(金) 13:00~16:15
会場	吹上ホール 7Fメインホール 名古屋市千種区吹上2-6-3
申込	https://www.jasbc.or.jp/ ※申込はWebサイトのみです。
申込受付期間	9月1日~10月30日
継続教育	—
資料	会場では配布いたしません。必要に応じて Webサイトより出力し持参願います。 10月30日掲載予定

《開催日一覧》		
地区	開催日	申込締切
東京地区	10/02(金)	09/25(金)
大阪地区	10/16(金)	10/09(金)
北海道地区	10/23(金)	10/16(金)
中部地区	11/06(金)	10/30(金)
東北地区	11/17(火)	11/10(火)
九州地区	11/27(金)	11/20(金)

(6地区開催ですが発表テーマは異なります)



開会	13:00~13:05	開会の辞	(一社)日本橋梁建設協会 副会長 長谷川 朋弘
第一部 技術発表	13:05~13:40	技術発表(1) 耐候性鋼橋の現状と今後の展望 ~LCCに優れ、環境負荷を低減できる橋として~	製作小委員会
	13:40~14:15	技術発表(2) 「ケン・ブリッチくん」と行く保全工事の世界 ~トラス橋ってどんな橋?特徴を理解して健全に橋を守ろう!~	保全委員会
	14:15~14:25	休憩	
	14:25~15:00	技術発表(3) ガーナ国 テマ高架橋 工事報告 ~本邦技術を活用した質の高いインフラ供給で、ガーナ国の交通渋滞解消に貢献~	海外事業委員会②
	15:00~15:10	休憩	
第二部 特別講演	15:10~16:10	鋼橋の合理的な耐震設計・耐震補強に向け た地震時挙動予測解析の高度化	名古屋工業大学 准教授 海老澤 健正
閉会	16:10~16:15	閉会の辞	土木学会中部支部 副幹事長 長谷川 裕修

発表概要

【技術発表(1)】

本発表では、耐候性鋼橋の耐久性および維持管理性の向上を目的として実施した各種検討結果と事例について報告します。まず、近年適用事例が増加している耐候性鋼用表面処理剤について、流れさびの防止や経年初期の外観改善といった利点に加え、塗膜の経年変化に伴う外観の変化や点検時に注意すべき点を整理し、沖縄で実施した暴露試験の結果を報告します。次に、耐候性鋼を裸仕様で用いた場合に見られる連結板の接合面におけるさび生成と連結板の反りの発生に着目し、ボルトの縁端距離および間隔が及ぼす影響について、連結部を模擬した試験体の暴露試験結果を通じて考察します。さらに、耐候性鋼の健全度評価を支援する手法として、実橋の3Dスキャンデータを基に作成したさびサンプルを紹介し、最後に、適切な環境条件とディテール選定により良好な状態を維持している橋梁の事例を取り上げ、LCCおよび環境負荷低減の観点から耐候性鋼橋の優位性を検証します。

【技術発表(2)】

ドライブをしていると道路や線路などでトラス橋を目にすることがあると思います。トラス橋は軽量で桁橋に比べて支間を長くすることが可能であるため、長年に渡り河川や山間部にて建設されてきました。また、歴史的に貴重な橋梁も残っており、それらを含めて現在でも数多くのトラス橋が現役で活躍しています。トラス橋はスレンダーで大変美しい橋梁形式ですが、部材の軸方向に作用する力にだけ抵抗することができる軸部材で構成されています。この大変重要な特徴を踏まえて維持管理(補修・補強)を行わなければ健全な構造を維持することができません。本発表では、トラス橋の構造的特徴を示したうえで、それらを踏まえた損傷事例や補修・補強事例、既設橋梁の状態を把握するための現地踏査や現地計測技術についてご紹介します。

【技術発表(3)】

本橋は、ガーナ共和国テマ市に位置し、西アフリカ海岸都市を結ぶ「ラゴス・アビジャン回廊」と、テマ港から内陸国への貨物輸送を担う「東部回廊」が交差する地点に建設された高架橋です。経済発展に伴う交通量の増大により慢性的な渋滞が問題となっていました。本橋の開通により円滑な物流網の構築が可能となりました。橋長142.3mの鋼少数板桁橋で、門型鋼製橋脚と上下部剛結構造を採用しています。下部工には深礎杭工法を採用し、大型重機の導入を不要とすることで、都市部の既存交通を確保しながら施工しました。また、塗膜下耐食鋼(EXPAL)を海外で初めて採用しています。アブローチ部には最大壁高約10mの補強土壁工法を採用し、経済性と施工性を両立させています。プロジェクト延長は約1.8kmで、2025年2月に完成しました。本発表では、テマ高架橋の設計、製作および現地架設に関する一連の取り組みを報告します。